

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2022 年度・第 1 回

2022 年 7 月 28 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価をする。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2022年度 第1回学校関係者評価委員会

2021年度における各学科の評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

- ・日時：2022年7月28日（木）17:00～18:00
- ・場所：読売理工医療福祉専門学校 301教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【出席委員と学校側関係者】

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部 俊一：理工専校友会会長
- ・本田 章良：保護者
- ・杉田 明治：地域住民
- ・中村 孝之：団体等
- ・羽場 宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛 信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・伊藤 大輔：企業等・臨床工学系学科
- ・大庭 尚子：企業等・介護福祉学科

【学校側委員（オブザーバ参加含む）】

- ・松井 敏宏：理事長
- ・吉山 隆晴：法人本部長
- ・中條 学：事務局長
- ・水落 清治：校長
- ・高橋 栄樹：放送映像学科長
- ・小川 貴之：建築系学科長
- ・秋田谷徳靖：電気電子学科長
- ・沢田 雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科長
- ・小野 恭子：留学生相談室副室長

【議 事】

1. 2021年度の教育活動、その他学校運営、学科近況報告
 - ①昨年度の重点項目の報告
 - ②学校の状況
 - ③卒業生数と就職状況
 - ④修学支援新制度について
 - ⑤2022年度の学校行事等スケジュール

2. 評価委員からの意見
3. 2022年度の重点項目について

4. 配布参考資料等

- 2022年度 第1回学校関係者評価委員会 報告事項ならびに取組み事項
- 資料1 2022年度「教育活動その他の学校運営」
 - 資料2 2022年度「学科状況報告」
 - 資料3 2021年度「自己評価報告書」

5. 報告事項

①昨年度の重点項目の報告

●新型コロナウイルス感染に対しての感染予防と学生・教職員の安全確保

新型コロナウイルス感染症の予防対策に重点を置いた教育運営を次のように行った。新型コロナウイルス感染症に罹患した学生は法定出席停止10日間としてきたが、完治に時間が掛かる学生もおり11日間を公欠として扱うことにした。延長された緊急事態宣言は解除され、まん延防止等重点措置期間に移行された後も引き続き、感染者の状況を判断しつつ授業運営のガイドラインの見直しを図り、感染予防に努めた。

・校内感染者の把握

7月には、校内クラスターを未然に防ぐ目的に「抗原検査キット」が、厚生労働省より配布され、検査実施に必要な保護者同意（未成年の在校生場合が必要）を求め、実施体制を組んでいたが、検査実施は4件であった。

また、東京都の新型コロナウイルス感染症モニタリング検査（PCR検査）を活用し、校内での感染者の把握に努めた。検査による陽性反応者は2件であった。

・具体的な感染対策

健康観察の徹底を図るため教職員には健康観察記録を配布し各自管理、各学科では担任が学生の日々の健康観察を行い、登校時の校内入り口に検温計ならびに手指消毒液を設置し、登校時には事務局職員による感染防止指導を行った。

緊急事態宣言の解除後は、対面授業についても3密防止の対策を行うことを条件に認めた。特に、学生・教員全員にはフェイスシールドを配布し、密になる恐れのある授業や実習等についてはマスクとフェイスシールドを着用させた。

ワクチン接種に関しては、東京都大規模接種、学校と同一のビルで行われた三菱食品職域接種、大手町読売新聞社職域接種で、教職員・学生の接種の機会をもうけた。

●除籍退学率10%以下を目標として学生の指導にあたる。

除籍退学者は62名（除籍3名・退学59名）、除籍退学率は9.41%（昨年度10.11%）と目標を達成することが出来た。内訳では、退学者の退学理由は25.8%（昨年度22%）が自己都合、30.6%（昨年度19%）が進路変更と昨年を大きく上回っている。自己都合での退学は、昨年度の場合「コロナ禍でのアルバイト収入の減」で留学生の割合が多かったが、今年度は「授業内容と本人の不一致を理由にする日本人学生」となり、その傾向は進路変更についても同様だった。これはコロナ禍で対面による面談が出来ないことから学生個々の状況を把握しづらかったことなので、コミュニケーション不足も要因に挙げられる。

2022年度は、対面授業を増やし、学生との面談機会を増やす等のこまめな学生指導を組み立て、除籍退学率を減少させたい。

②学校の状況

- ・2022年度の入学者は288名で、昨年の295名を下回った。

③卒業生数と就職状況

- ・別紙のような卒業生数で、コロナ禍で求人数が減少する厳しい状況の就職活動であったが、結果としては3月末現在90%の就職率であった。

④修学支援新制度について

- ・修学支援新制度の当初交付申請者は43名であった。

⑤2022年度の学校行事等スケジュール

- ・5月25日 ナイター招待
- ・6月17日 スポーツ大会
- ・10月28日～29日 学園祭

6. 委員からの意見

- ・臨床系学科の退学者が多いようだが対策はやっているのか。
- ・中退率があまり変わっていない。コロナ禍で大変だと思いますが、いろいろ対策されていて苦労されていると思う。
- ・求人件数が減っている中で、努力されて就職率が維持されている。
- ・就職状況の資料の中に求人件数を入れてほしい。
- ・進学者は就職希望者の分母から外した方が良いと思う。
- ・コロナ禍で学生はコミュニケーションを取りにくくなっている。この状況はまだ続くと思われるので、継続できるコロナ対策が重要である。
- ・オンライン授業を受ける場所は、自宅の個室の場合もある。この場合にはマスクを外すとか透明なものを使用して、表情が見えるのが望ましい。
- ・退学者をゼロにするのは難しい。
- ・現時点で就職が決まっていないのは、各社とも採用を控えているからだと思われる。
- ・入学者が減ったのは留学生に依存しているからではないか。
- ・コロナ禍でも電気の就職率が高い。わが社でも人材は不足している。
- ・先生方も苦労されていて、学校の方針も良い形になっている。
- ・対面授業をやらないと、授業について行けない学生がいるのではないか。
- ・学生のときに登校していないからなのか、就職して毎日通勤するのがつらいという新人もいる。
- ・臨床系の就職は、臨床工学技士の仕事の種類が増えて、各病院の増員が考えられる。今年度は多くの募集がかかると思うので、この機を逃さず積極的に就職活動をして欲しい。
- ・介護の就職は、2025年に介護の需要が増えるので、介護の学校の存在意義がある。
- ・介護の魅力を発信して、若い人材を集めていくのが課題かなと思っている。
- ・大学より学費が少なく済むなど、専門学校の魅力を出して宣伝してほしい。
- ・入学した学生になぜ本校を選んだのかななどを調べ参考にしてアピールする。

7. 今年度の重点項目

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を確実にしながら、対面授業を行っている。退学者を減らすためにも、月1回の学科長会議を行い、欠席が目立ち始めた学生の情報を共有し対応に当たっている。就職率の向上も含めて次の2点に重点を置きたい。

- ①昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を10%以下とする。
- ②就職希望者のすべてが就職できるように、就職指導の強化を行う。3月末の就職率を前年度の90%を超えるようにする。

8. 委員からの評価と意見（評価点：5点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝不十分である）

● 昨年度の重点目標 ①学生・教職員の安全確保の評価（4.33）

- ・コロナ禍の中、やるべきことを、できる限り行っている。
- ・コロナ対策をしっかり行っている事は素晴らしいと思います。
- ・感染対策で大事なのは、感染者の把握と隔離。学校での飛沫感染の予防、ワクチン接種である。日々の健康観察を行い、濃厚接触も公欠として扱っていることは、とても評価できる。マスクとフェイスシールドもきちんと行えている。これらの行為を日々着実に継続してほしい。
- ・これ以上は無いくらい対応されていると存じます。
- ・特にコロナ感染対策はリモート授業の対応などに取り組み効果を上げた。リモート授業ではマスクを外して行ったらどうか。先生、学生共に親近感、コミュニケーションの推進になるのでは。
- ・法定出席停止日数の延長、緊急事態宣言解除後の授業運営ガイドラインの見直し、職域接種等を活用し、教職員・在校生のワクチン接種の機会を設ける等、十分な対応が図られていると思います。
- ・良く検討され最良の選択をされていると感じています。

● 昨年度の重点目標 ②除籍退学率 10%以下目標の評価（4.00）

- ・対面授業を増やしていく中で、学生とのコミュニケーションをできる限り行っていてほしい。
- ・10%以下にとどめられたことは評価されることだと感じます。まだ成人前の子供達、まだまだ未熟です。対話を大切にしていきたい。
- ・コロナ禍でのコミュニケーション不足が懸念されるなか、目標の10%以下を達成できたのは、教職員の努力の結果であり、評価できる。進路変更による退学は授業についていけるかが大きな要因となるため、理解度の低い学生のフォロー体制をしっかりと行いながら、今後も目標の10%以下を達成できるように努めてほしい。
- ・学校全体では向上されていると存じますが、不適應なのか経済的理由なのかその他の理由なのか書類からは読みにくかった。
- ・1学年の退学率が多い。2年生迄引きつける、夢を与えるような授業も必要かと思えます。学校全体で退学率9.4%は評価できる。
- ・除籍退学率の目標が達成されたことは、教職員の方々の努力の結果だと思えます。引き続き除籍退学率の低減に向けて努力いただければと思います。
- ・こまめな連絡、体調管理が除籍退学率を減らす。学生間のコミュニケーションの充実。
- ・努力を感じます。

● 2021年度 教育活動その他の学校運営の評価（3.78）

- ・学科が異なっているので、難しいと思いますが、地域交流や課外授業、見学などを増やして行ってほしい。
- ・専門の知識を学び社会に出る準備をしておき、就職率90%は満足出来る数字だと思います。
- ・コロナ禍で学校のレクリエーションが行えたことは、学生の意欲や教職員の努力によるものであり、評価できる。入学者の減少については、今は各学校人数制限などの様々な対策を取りながら、オープンキャンパスを活性化させるため、オープンキャンパスや説明会（奨学金の説明会）などの取り組みを強化したら良いと思う。
- ・コロナ禍での先生方の努力がしのばれ、優れていると存じます。

- ・コロナの中で企業インターシップも難しい中、入学者を増やすためのプロモーションPR等を継続的に行うのが良いのでは。卒業生（社会人）との交流のコミュニティー作りなど。
- ・様々な努力はされていると思いますが、入学者数が対前年より減少、就職率も90%となっており、特に、入学者数を増加させる対策を講じる必要があると思います。
- ・コロナ禍で制限が多い中、工夫して教育活動をする。実践教育を増やすと興味を持ち学習意欲が増す。

● 学校運営に関する全体の評価（4.33）

- ・コロナ禍の中でも、やるべき事、できる事はやっておられると思い、先生や職員の方々の努力を感じております。
- ・努力されている所が散見され苦勞がみてとれます。専門の教職員を配置、質の良い学習をしてもらいたいです。
- ・感染対策や除籍退学率などの学校の取り組みが実を結んでいると思う。今取り組むべき課題は、入学者の確保である。委員会の中でも意見があったが、在校生へのアンケートをとり、どうしてこの学校を選んだのかを把握し、オープンキャンパスや説明会の中で、そこをアピールしていくことが大事であると思う。
- ・大変学生のため考えられ、十分だと存じます。また学生たちが学生生活を楽しめるように文化祭等が実施されればよいと存じます。管理組合としても町会としても応援したいと思います。
- ・コロナが長引く中、対策を引き続きお願いしたい。学校を取り巻く地域社会とのコミュニケーションを継続して推進してほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応、退学除籍率の改善等適切に運営されていると思います。就職指導については、就職希望者の内定率100%達成に向け、引き続き努力いただければと思います。また、安定的な学校運営のためにも、引き続き入学者数増に繋がる対応を検討いただければと思います。
- ・コロナ禍、良く対応し頑張っていると思います。

● 2022年度の学校運営・教育活動に関する意見

- ・今後も現状の教育を続けて行って欲しいと思います。
- ・感染対策をしっかりと、コロナ前の活動に少しでも近づけて頂きたいと思います。
- ・臨床工学科に関し、昨年度より一部法律改正によって現場でのできる仕事が増えていく。そのため、今は、各病院、単純に人員増にふみ切ることが出来るため、早めの就職活動を行う事で、就職率を上げる事が出来ると思う。
- ・コロナも3年目となり、教育活動の方法等こなれてきていると感じた。学生間のつながりの持ち方について、行事等の実施で少し発展すると良いと思います。同じ道を歩いていく仲間は、就職してから支えになりますので。

9. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上